


各グループの紹介

きかく 企画部

ジュニア編集局の記事の企画編集を行っているのが企画部です。編集長ほか記者6名+大人スタッフで常時フルパワーでがんばっています。企画するだけではなく、もちろん自分たちでも取材して記事を書きます。今回のトップ記事「つづきの七不思議」は、企画部が「都筑七不思議調査団」を結成して、調査と取材を行い、まとめたものです。


青野 瞳子	中川西小5年
門脇 ひかる	横浜国大附属横浜中3年
神尾 真美	桜蔭学園中3年
木村 枝里香	中川西中1年
栗原 里実	日本工大駒場高1年
須栗 優奈	荏田南中3年
西松 美和	中川西中1年



文化部

文化部は、地域(いき)のイベントが大好きな女子チームです。いろいろなイベントを楽しんだり、講座(こうざ)を体験したりして取材を行っています。文化部では、取材できるイベントを募集中です!こんなイベントや講座を紹介してほしいという方は、ぜひご連絡ください。よろしく願います。


石井 真央	東山田中2年
下川 紗季	北山田小6年
田中 真穂	茅ヶ崎小5年
永野 萌	南山田小5年
西倉 あや音	東山田小5年
矢野 淳奈	子母口小6年
吉田 裕子	茅ヶ崎小5年




社会部

女子2人、男子7人で活動する社会部は、ジュニア編集局の中でも、社会問題?を扱(あつか)ういちばん過酷(かこく)な取材や調査をしています。公園のトイレ調査では、まわりの人にあやしい人と間違われたり。だがし屋を探して、行き止まりの道で迷子(まいご)になるなどの事件もありました。これからままのコアな取材を続けていきます。

飯田 修平	東山田小6年
大河原 ひなた	川和東小6年
大谷 美咲	中川西小5年
門脇 慧	横浜国大附属横浜中1年
栗原 大知	都田中2年
黒山 幹太	日大三中2年
関 将吾	川和東小6年
福永 圭吾	新吉田第二小5年
百崎 佑	中川西小5年



ジュニア記者となって活躍してみませんか?

つづきジュニア編集局では、来年度に向けて編集(へんしゅう)委員や特派(とくは)員を募集します。

つづきジュニア編集局 編集委員募集

小学4年~高校生までで、都筑区周辺の方(編集会議や取材が都筑区内となります)で、毎月約1回の会議に出席でき、取材や講座(こうざ)にも積極的に参加できる人。

つづきジュニア編集局 特派員募集

小学4年~高校生までで、特に地域(いき)は問いませんが、年に数回の講座や全体会議に出席できる人。特派員には、自分の地域のニュースを取材して、メール等で送ってもらいます。それを、子どもたちの編集部が編集してブログ等にアップします。

☆編集委員、特派員いずれも、パソコンでのメールの送受信ができる人(保護(ほご)者が代行してもかまいません。携帯(けいたい)メールは不可)。保険(ほけん)料を含め登録に年間500円がかかります。(取材のときの交通費や飲食代は自己負担(ふたん)となります)。

☆活動は2011年5月にスタートします。編集委員の締め切りは4月10日までです。編集委員は、年度の途中からの参加はできません。

ジュニア記者になるといろいろな体験ができます。年齢(れい)も学校も違う友だちができます!ぜひ応募(おうぼ)してみてください。(応募者多数の場合、編集委員は学年ごとに分けて抽選(ちゅうせん)します。特派員は全員登録できます)。

申し込みは minicityplus@gmail.com まで。

ジュニア記者の七つ道具

- ・名刺: 全員、自分の名刺を持っています。取材するときは名刺を出して名前を名乗ってあいさつします。
- ・筆記用具: 取材中は必ずメモを取ります。小学生はもちろん鉛筆を使います。
- ・デジカメ: 記事には写真も必須です。ケータイのカメラを使うこともあります。
- ・NOTA(<http://nota.jp>): 全員、NOTAに自分のページを持っています。原稿や写真のアップにも利用しています。
- ・パソコン: NOTAに原稿や写真をアップするときなどに使います。
- ・水筒: 真夏の取材には欠かせません。長い夏休みは、あちこちに取材に行くチャンスです。
- ・ハート: 「知りたい!」「体験したい!」「なぜ?」と思う心が一番大事です。

七つ目の不思議は、きっとあなたの身の回りにひそんでいます。探してみてください。秘密がみつかったら、ぜひジュニア編集局に連絡ください。お待ちしております。

第2号 2011(平成23)年3月発行



編集 つづきジュニア編集局(事務局 NPO法人ミニシティ・プラス)
 発行 NPO法人ミニシティ・プラス
<http://minicity-plus.jp> (e-mail: minicityplus@gmail.com)
 横浜市都筑区役所地域振興課
 東京都大環境情報学部中村研究室

ジュニア記者と一緒に活動して…

子どもたちは、取材活動を重ねる度に記者としてももちろんのこと、活動への積極性や仲間への思いやりなど、人としての成長もたくさん見せてくれました。

私たちにとっても、個性豊かなジュニア記者の皆さんと交流できたことは、学生生活を送る中で貴重な体験になりました。

東京都大環境情報学部中村研究室学生一同
 東京都大環境情報学部中村研究室


ジュニア編集局のホームページ(ブログ): <http://webtown-yokohama.com/junior/>

調査記録ファイル1 トトロの出現する歩道橋

つづきジュニア編集局企画(きかく)部では、都筑区の不思議なものを取り上げ、「七不思議」として調査(ちょうさ)しています。今回は区役所通りの歩道橋に出現(しゅつげん)する「トトロ」を取材しました。私たちはある夜、区役(やく)所前の歩道橋から「トトロ」の撮影(さつえい)に成功しました。歩道橋からセンター北方向を見ると、街灯がつながって、ジブリ作品「となりのトトロ」で有名なあのトトロのシルエットに見える、というものです。設計(せつけい)のときに電灯をネコの耳のような形に配置したというお話も聞きました。みなさんもぜひトトロに逢(あ)いに行ってください。

調査記録ファイル2 成だけなぜか見つからない十二支の石

センター北駅と北山田駅の間にある緑道に点々と置かれている石には、干支(えと)の動物の名前が彫られていて、計12個ある…はずなのですが、なぜか戌(いぬ)だけがなかなか見つかりません。この不思議な石たち、実は、子どもたちの待ち合わせに使ってほしいという思いで作られたそうです。通りがかった子どもたちやお母さん方に聞き込み調査をした結果では、待ち合わせにはあまり使われていないようでしたが、地域になじんでいるオブジェであることがわかりました。みなさんも十二支の石を巡るウォーキングをしてみてください。年賀状用に、その年の干支の石の前で家族で写真を撮るのもおすすめです。




調査記録ファイル3 まもるくん生誕の秘密

都筑まもるくんは、都筑区交通安全のシンボルとして2005年にセンター南から歴史博物館(わか)交差点に引越してきました。まもるくんは身長7m・体重1t、両足の重りも入れると3tにもなります。元々は旭(あさひ)区にあったテーマパーク「恐竜(きょうりゆう)の森」にいました。そこが閉(へい)園になり捨(す)てられそうになったところを交通安全協会に引き取られ、協会のあった川和にいました。次に郵(ゆう)便貯金センターや水道局横に移(い)動し、そして現在(げんざい)の場所と4度も引越しました。都筑区にはまもるくんをモチーフにしたパンやお菓子(かし)もあり、まもるくんの知名度の高さがわかります。

調査記録ファイル4 港北・都筑インターチェンジの謎

不思議なことに、都筑インターは港北区、港北インターは都筑区にあります。なぜそうなったのかを知るため、NEXCO東日本京浜管理事務(む)所を取材しました。話を聞くと、これは都筑区誕生(たんじょう)の歴史と深く関わっていました。昭和14年、まだ都筑区はなく、港北区が誕生。昭和40年に第三京浜道路全線開通、港北区に港北インターチェンジが誕生。昭和44年緑区が分区分けし、港北インターは一時的に緑区になりました。平成6年に都筑区と青葉区が誕生し、港北インターは都筑区になったというわけです。そして平成7年に都筑区へのアクセスとして都筑インターチェンジが港北区の住所内に誕生しました。ああややこしい。



七つ目は…この新聞のどこかに書いてあるよ。探してね!

調査記録ファイル6 都筑に棲む妖怪

妖怪辞典に『都筑区川和町に「あずきばあ」がいる』と書いてあったので、川和に70年住んでいる人に聞いてみると「あずき婆は見たことないが昔は庭で育てたあずきを川で洗っていた人はいた」とのこと。さらに調べると「鶴見川妖怪(怪)会」という団体が鶴見川流域を中心に妖怪の研究をしていたと聞き、メンバーの吉田洋子さんにお話を伺いました。会では、妖怪の棲んでいそうな所を歩いて地図を作っていたそうです。妖怪は人が入ってはいけない場、森や林や湿地(しっち)帯に棲むと考えられているそうです。妖怪にあうには一人でする場に行くことが重要(じゅう)かと…。でも会のメンバーもまだ一度も本物を見ません。最近森や林が切り倒されて妖怪が棲めるような場所がどんどん減っています。私たちは昔のまま残っている「手を加えない自然」を残していくために何が出来るか、考えていく必要があると思いました。

調査記録ファイル5 「テクノゾーン入口」ってなんの入口?

つづきジュニア編集局の会議で地図をみていて「テクノゾーン入口」という交差点を見つけ、「テクノゾーン」ってなに?と疑問を持ちました。周辺を歩いて調べてみると、近くに「新横浜テクノゾーン協同組合」を発見。さっそく取材を申し込み、栗屋野理事長さんと森事務局長さんにお話を聞きました。この「テクノゾーン」とは、市営地下鉄新横浜~あざみ野間の延長、宮内新横浜道路計画により移転することになった企業が川向町に移ってスタートした異業種組合の名前です。現在は42社で構成されています。「テクノゾーン」とは、ものづくりをする企業の集団です。ここでは技術をもった職人さんがたくさん働いています。

